

令和 7 年度第 1 回太白区区民協働まちづくり事業評価委員会 議事録

○日 時：令和 7 年 6 月 1 日（日）午前 9 時 15 分 ～ 午前 11 時 45 分

○場 所：太白区役所 5 階第 3 会議室

○出席委員：岩間友希委員長、菅原玲副委員長、石内鉄平委員、加藤雄三委員、鎌田隼委員、
新沼美佐子委員

○事務局：利まちづくり推進部長、佐藤まちづくり推進課長、安田地域活動係長、
佐藤地域活動係主事、三上地域活動係主事

○会議内容

1 開会

2 議事

議事録署名委員を指名した。

（1）評価方法について説明

（2）令和 6 年度企画事業報告及び意見交換

「太白区民まつり」の事業報告及び意見交換

事業報告：

令和 6 年 10 月 20 日（日）に杜の広場公園及びその周辺会場にて「みて、たべて、あそんで。体感たいはく！」をテーマに開催し、約 22,000 人が来場した。

企画運営は 14 名の企画委員を中心に行い、当日は 68 名のボランティアにも参加いただいた。会場の設営・警備に関しては民間事業者へ委託した。

太白区で活動する団体を中心にステージ発表 28 団体、テント村出店 53 団体の参加があったほか、ミニ機関車運行やはたらく車の展示、新規企画として 7 団体のゆるキャラによる賑やかしがあり、区民参加・交流型の総合的なまつりとしての役割を果たした。

課題として、ステージ発表の 1 団体あたりの出演時間が短いという点が挙げられた。令和 6 年度は申込団体に可能な限り出演してもらう方針であったが、令和 7 年度の出演時間と出演団体数のバランスのとり方については、企画委員会で協議していく。

意見交換：

〔委員・質問〕 予算額に対して決算額が下がっているが、何か工夫はあるのか。

〔報告者〕 昨年度、広報に関してチラシ等のデザインを東北工業大学の学生さんに作成していただいた。予算組みの段階では業者に委託する予定だったため、結果として想定より費用を抑えることができた。

〔委員・質問〕 他のイベントで、参加団体向けの事前説明会が平日日中に行われているために、その時間に都合のつかない団体が参加しづらくなっているという話を聞くのだが、区民まつりはどうか。

〔報告者〕 区民まつりでは事前説明会を平日夜に開催しており、日中都合のつかない方も参加できるようにしている。

〔委員・意見〕 宮城野区と若林区が同日にまつりを行っているので、「太白区らしさ」を打ち出していくことが大切になるのではないかと。

〔報告者〕 いかに「太白区らしさ」を出すか、今まさに企画委員の方々と検討しているところである。

〔委員・質問〕 収入のうち「使用料」が増加しているのはなぜか。

〔報告者〕 使用料とは出店者に出していただく出店料のことを指す。昨年度、出店料の値上げを行ったため増加した。

〔委員・質問〕値上げに関して、出店者からのクレームはなかったのか。

〔報告者〕出店者にアンケートを取っているが、特に出店料に関しての苦情はなかったこともあり、妥当な金額だったのではないかと考えている。

〔委員・質問〕他のイベントでボランティア集めに苦労しているという話を聞くが、まつりのボランティアの集め方で工夫していることはあるか。

〔報告者〕公募に頼らずに事務局から高校や大学へ直接依頼に行くことや、ボランティア証明書を発行することを募集時に周知したことにより、ボランティア参加者を増やすことができた。

〔委員・意見〕ステージ出演者として参加したが、控え室の使用の順番や使用時間が明示されていたので分かりやすく、とてもよかった。

〔委員・意見〕お金が必要なブースだけでなく、こどもが無料で遊べるブースもあることがいい点だと思う。

〔委員・質問〕来場者へのアンケートは行っていないのか。

〔報告者〕アンケートを行っているが、回答総数が多くはない。回答の内容としてはポジティブな内容が多い。

〔委員・意見〕アンケートを取る内容に関して、アンケート検討チームを設けて、学生をメンバーとして取り込むと、学生にとっていい学びになるのではないか。

「太白区まち物語」の事業報告及び意見交換

事業報告：

地域住民が地域の成り立ちやあゆみ、生活史の変遷等をまとめた冊子やマップの制作を支援している。助成対象となるのは冊子制作、小冊子・マップ等の制作、制作物を用いたまち歩きツアー等の活動である。令和6年度は小冊子制作費の助成を2団体に行った。

緑ヶ丘第四町内会は、震災からの復興の歴史や、町内会50周年を記念した地域住民からの寄稿を掲載した小冊子を制作した。今後若い世代を交えて町内会活動の幅を広げ、会員同士のつながりを深めるために冊子を活用する予定である。

さかいの地区創生会は、境野地区の歴史や魅力を小冊子にまとめ、地区内外の住民や観光拠点等に配布した。

両団体から、自分たちの地域の歴史や現況を再発見・再確認できたという報告を受けており、地域への愛着の増進に寄与できたと考えている。

近年申込があるのは小冊子・マップ等の制作のみで、冊子制作の申し込みがない。より多くの団体に活用してもらえよう、助成制度の内容について工夫が必要だと考えている。

意見交換：

〔委員・質問〕制度利用について問い合わせをしたものの申請には至らないという団体があるとのことだが、各団体は具体的にどのような理由で申請に至らないという判断をしたのか。

〔報告者〕申請を検討している団体が、過去に制作された冊子を実際に見た上で「制作をしない」という判断をしたり、申請手続きや助成金額の詳細を知った上で自己資金での制作を決めたりというケースがあった。

〔委員・意見〕制作した小冊子を配布された側からの感想や評価、意識の変化等まで検証できると、事業の効果が見えやすくなる。

〔委員・意見〕冊子の制作だけでなく、Webでの公開も検討した方がよいのではないかと考える。

ただ、誰のためにWeb化をするのか、どこまでデジタルで残すのかということは事務局で判断してほしい。

〔委員・意見〕冊子の制作にはかなりの労力が必要。高齢者中心で行うのは難しいので、若者が

中心になって制作できるといい。

[委員・意見] 冊子制作にはノウハウが必要。助成金を出すだけではなく、例えば過去に制作した団体からのレクチャーや手助けがあると、冊子制作の負担が減るのではないかな。

[委員・意見] 制作した冊子の活用方法としては、例えば学生の卒業論文の資料にしてみらうといった方法がある。

[委員・意見] 地区に新たに引っ越してきた方が制作された冊子を見て、地区の歴史を知ることができるという点でとてもいい事業だと思う。だからこそ今後も事業を継続していけるように工夫をしてほしい。

[委員・意見] 若者の参加やアーカイブ化など、同じ内容の課題が例年挙がっているので、引き続き見直しをしてみしてほしい。

「秋保ミュージアム環境整備支援事業」の事業報告及び意見交換

事業報告：

①資源活用人材育成支援

「いってみっぺ秋保」を新規 4 コース発刊したほか、既存のパンフレットを活用したガイドツアーを 4 回実施、秋保市民センターとの共催で市民講座を 2 回実施した。

②地域資源環境整備支援

野尻旧足軽集落散策路や森峯山、旧板風道などの環境整備を行った。

③地域活動のつどいの実施

38 団体から 114 名が参加し、4 団体が活動発表、12 団体がブース展示を行った。新旧の団体がつながり団体同士の連携強化ができた。

意見交換：

[委員・質問] いってみっぺ秋保について、全 62 刊中 53 刊発刊済みとのことだが、あと何年ほどで全て発刊できるのか。

[発表者] 今年度を含めてあと 3 年で発刊できると考えている。

[委員・質問] 運営団体の年齢層はどうなっているか。

[発表者] 60 代以降が中心ではあるが、30 代や 40 代の方もいる。

[委員・意見] 実際にパンフレットを活用している方の活用事例や感想が分かるとよい。

[委員・意見] パンフレットに載っているコースがハード。コースの一部分だけでも楽しめるような記載ができるとよい。

[委員・質問] 秋保地域資源活用委員会へ新規加入したい場合はどのような流れで行うのか。

[報告者] 既存メンバーからの紹介で加入するパターンが多い。

[委員・質問] パンフレットを用いたガイドツアーに参加したい場合はどのように申し込むのか。

[報告者] 参加者を公募しているというよりは、地域の団体同士のつながりの中で、「ガイドをしてほしい」という依頼に対応する形で開催している。

[委員・意見] ガイドツアーの参加者を公募してほしい。

[委員・質問] 秋保ミュージアム事業と、秋保の交流人口の拡大の位置づけをどのように考えているか。

[報告者] 過去の事例として、隠れた観光資源が SNS で広まったことをきっかけに、多くの人が訪れて環境が荒れてしまったことがある。例えばパンフレットを多言語化するといったアイデアは出ているが、環境保全と観光客の誘致のバランスは考えなければならない。

[委員・意見] 秋保地区の出生率は下がっているが、秋保への移住者は子育て世代も多い。こどもたちの方がいろんな地域資源を知っていたりする。若い世代を巻き込めるとよい。

「まつりだ秋保 2024」の事業報告及び意見交換

事業報告：

令和 6 年 10 月 27 日（日）に、秋保総合支所前広場で開催し、約 2,000 人が来場した。

出店・出展団体は 33 団体、ステージ出演団体は秋保の田植え踊りや中学生の和太鼓・篠笛演奏など、4 団体が参加した。

実行委員は 17 名で構成されており、まつり当日は 59 名のスタッフで運営を行った。

来場者向けアンケートについて、令和 5 年度は回答者数が伸び悩んだため令和 6 年度は回答者へのプレゼントを用意した。その結果、約 250 人から回答を得られた。また、来年もまつりに来たいとの回答が約 9 割に上った。

今後、新規団体にステージ出演や出店をしてもらいたい。秋保に新たに進出した店舗や事業所に積極的に声掛けをしていきたいと考えている。

意見交換：

〔委員・質問〕 予算に比べて支出が抑えられているが、工夫した点は何か。

〔発表者〕 前年度は業務委託で行ったステージの組み上げや駐車場設営について、令和 6 年度は委託費高騰を見込み自前で行った。

〔委員・意見〕 繰越金を活用して、ステージ出演者に謝礼を支払い、出演の呼び水としてもよいのではないか。

〔発表者〕 現状、出演者にお礼として謝礼や弁当の支給は行っているところである。

〔発表者〕 ステージを盛り上げるため出演団体数を増やしたいと考えている。昨年、秋保に開校したかがやき支援学校に声がけしたところ、昨年度は「開校したばかりなので出演は難しい」とのことだったが、今年はぜひ生徒の発表をさせてもらいたいという話を受けている。また、他区の区民まつりに出演を希望していたが出演が叶わなかった団体にもぜひ出演してもらいたいと考えている。

〔委員・質問〕 理想の来場者数はどのくらいを想定しているのか。

〔発表者〕 3,000 人程度と思われる。令和 6 年度の来場者数は約 2,000 人で令和 5 年度より 100 人少なくなった。減った原因の一つとして県道仙台山寺線が、秋保大滝に紅葉狩りに来た人で渋滞するので、まつりに来たいが来られないという人の話も聞く。

〔委員・質問〕 出店料値上げの検討が必要とあるが、令和 6 年度決算をみると繰越金が増えている。どのような経緯で値上げを考えているのか。

〔報告者〕 まず令和 6 年度に繰越金が増えていることについて、令和 7 年度のテント代等の値上げを見越して多めに残るよう取り計らった部分がある。

次に出店料について、令和 5 年度は 1 テント 2,500 円、半分なら 1,000 円としていたところ、令和 6 年はそれぞれ 4,000 円と 2,000 円に値上げした。しかし、それでも安いという声が出店者からも挙がっていることから、実行委員と協議の上、令和 7 年の方針を決めたい。

〔委員・意見〕 来場者アンケートによると、まつり来場者は友人・知人の紹介や、市政だよりの記事をきっかけに来ている方が多いとのことだった。決算書を見ると新聞折り込み広告を入れているようだが、必要なのか検討した方が良い。

〔委員・意見〕 アンケートで 246 人から回答を得られたということと、回答者の 9 割が来年も来たいと答えているということはすごいことだと思う。来年も来たいと思わせる要因は何なのかアンケートで探ると、次年度の力の入れどころの判断材料になる。

〔委員・質問〕 アンケートに、印象深かった点やどういうところが良かったかを尋ねる設問はあったのか。

〔報告者〕 アンケートの設問としては設けていなかった。ただ事務局の印象としては、旬の野菜・

秋保で栽培しているそばの販売や、抽選会を楽しみに来ている方が多いようだ。抽選会に関して、まつりの会場内で使える 500 円の金券に抽選券を 1 枚つけている。2,000 人の来場者に対して 70 本の当たりがあるので当選確率が高い。また、商品に宿泊ペア券や、地元産のビールやワイナリーのお酒、お米を準備している。この抽選会を目的に来ている方も見受けられるので、ここは削れないところだと考えている。また去年は、野菜を買うために来たのに既に売り切れているという声があったので、今年は多くの方が購入できるように、実行委員会で協議していきたいと考えている。

〔委員・質問〕アンケートの回収率が約 12%と高い。努力したのではないのか。

〔発表者〕まつり会場の入口にアンケート記入場所を設け、来場時にアンケート用紙を渡し、帰る際にアンケート提出を呼びかけた。回答者には非常食用のようかんなどをお礼として渡した。

〔委員・意見〕回収率の高さを生かすためにも、アンケート内容の精査をしてほしい。他のイベントとアンケートの中身を共有して、質問項目を考える労力を減らすのも一つのやり方である。

〔委員・意見〕10 月はイベントが多い時期。他区のまつりも同時期にある。それでもこの時期が妥当だと判断するのであれば開催することはよいと思う。その場合、イベント同士でお客さんの取り合いになるので、規模を大きくすることだけがイベントの成功ではない。

〔委員・質問〕現在の規模であれば、今の人数で運営することは問題ないのか。

〔発表者〕問題ないと考えている。まつりの開催日が選挙の投開票日だったので、まつり終了後に開票事務に従事した。まつりの翌日もテントやステージ、看板等自前で準備した物品の片づけ作業があるので、開票事務は早めに切り上げさせてもらった。今年も 10 月最終日曜日は選挙だが、選挙とまつりが重なっても運営できると判断したため、令和 7 年度も同日に開催予定である。

「秋保地区スポーツレクリエーション大会」の事業報告及び意見交換

事業報告：

令和 7 年 2 月 23 日（日）に秋保体育館で開催した。秋保の各町内会やスポーツ少年団で編成された計 16 チームが競う団体競技のほか、個人競技も実施した。秋保総合支所管内人口の約 11% にあたる延べ 432 人が参加し、地域コミュニティの醸成や住民の健康増進につながった。

また、会場内の一室に、秋保総合支所保健福祉課が保健指導や健康チェックを行う「くらしの保健室」コーナーを設けたところ盛況であった。

今後は町内会未加入世帯に対しても参加の呼びかけを行って、地域の交流を広げていきたい。また、小学生を含むこどもたちの参画をさらに図るため、競技の見直しや、地区子ども会育成会など協力し合える体制づくりを考えたい。

意見交換：

〔委員・質問〕運動会やスポーツ振興イベントへの参加者がどんどん減っている時代であるが、このイベントに多くの方が参加している要因は何か。

〔発表者〕仙台市への合併前から、旧秋保町では町内会対抗の運動会が開催されており、それが形を変えてこのスポーツレクリエーション大会になったようだ。日常での隣近所との交流が希薄になっている中で、住民同士顔を合わせ、健康や家族の話をお互いにすることを目的に参加している方もいるようだ。

こどもの参加が少ないという課題があったため、子ども会育成会の助言により、各小学校にイベント周知のポスターを掲示してもらった。このポスターを保護者が見て、こどもの参加につながったこともあるようだ。

冬場は寒く、外出の機会が減りがちである。競技をせずに応援をするだけでもいいので、多くの方に来てほしい。

〔委員・意見〕アンケートを取るまでしなくても、参加者に直接聞く形でもいいので、イベント

がここまで継続できている理由を洗い出しておく、他の地域のまちづくりの参考になる。

〔発表者〕令和 7 年度は、参加者の代表者から反省点やどのように参加者を集めるかなど、意見を聞くようにしたい。

〔委員・意見〕くらしの保健室が想像以上の大盛況だったという点が気になる。くらしの保健室の本来の趣旨は、病院にいくほどではないちょっとした体の困りごとの相談の場をつくることで、日頃から健康を意識してもらうことではないか。ここに人が多く来たということは、日常的な事業として行うことが求められているのではないか。

〔委員・意見〕くらしの保健室について、試合に参加していない空き時間を活用できる啓発コーナーを設けたことは素晴らしいこと。スポーツレクリエーションの裏の目的に位置づけられるくらいに意義のあるコーナーなのではないかと思う。今後も継続していくことや、やり方などを検討できるとよい。

〔委員・意見〕参加者は分散してしまうかもしれないが、フレイル予防の観点からするとレクリエーションを年 2 回の開催とするのも一つの方法だと思う。

〔委員・意見〕こどもの参加を増やすために、こどもがどんな競技をやりたいのか小学校や児童館に聞いてみるといいと思う。また、子ども会に入っていない、町内会にもかかわっていない親子世代は増えてきているはずなので、そういった層も取り入れるため、例えば児童館で 1 チーム作って参加してもらうという方法もある。

〔発表者〕こどもの参加者を集めるために、児童館や保育所、幼稚園の先生に実行委員になってもらうことも検討したい。

〔発表者〕今回、イベント参加者の路上駐車などの問題が発生した。令和 7 年度は実行委員から駐車場誘導係を配置し、近隣の迷惑にならないようにしたい。

4 閉会